

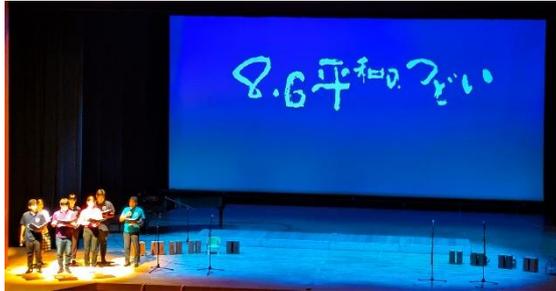
2025. 8. 27

北九州市教職員組合にゆうす



## 「8・6平和のつどい」開催される！その1

テーマ 「あれから80年 現在、そしてこれから…～いま私たちにできることは～」



ヒロシマ、ナガサキに原爆が投下されて80年が経ちました。「被爆者健康手帳」を持つ人は3月末で9万9130人、「被爆者」の平均年齢は、0.55歳上がり、86.13歳となりました。今年初めて10万人を切り、被爆者の高齢化とともに被爆の惨禍をいかに次の世代に「つなぐ」かが課題となっています。

8月6日、ウェルとばた大ホールにて、379名の参加者を迎え「8・6平和のつどい」が開催されました。「戦後80年」ということ

で様々なメディアから、「過去の戦争」の特集が放送され、戦争の悲惨さと平和の大切さを出演者が語っています。しかし、2022年からのロシアによるウクライナ侵攻も、23年からのパレスチナ自治区ガザ地区へのイスラエルによる攻撃も終結が見通せません。今も世界の各地で尊い命が奪われ続けているのです。

日本では、有事に備えて南西諸島への自衛隊配備が着々と進み、当たり前のように佐賀空港に配備されたオスプレイは、年間290日程度、九州の空を訓練飛行する予定です。2024年4月に自衛隊と海上保安庁の航空機や艦船が平時から使用可能な「特定利用空港」に指定された北九州空港では、開港以来初めて(2025.6.27)、F2戦闘機2機によるタッチアンドゴー(連続離着陸訓練)が行われ、戦争への道が既成事実化されていくようです。

だからこそ、教職員組合が最も大切にしているスローガン「教え子を再び戦場に送るな」の言葉をもう一度私たちは、心に刻むべきであると考えます。

参加者からのメッセージを紹介します。

○ 原爆を経験した人の話や絵本などを聞いて、もう一度頭で「戦争はだめ」だと考えました。さらに「日本が戦争に敗れた。」と言っているけど、罪のない国、中国・朝鮮などに差別や十分な食料をあたえなかった日本を知り、心がすごく痛みました。日本だけでなく、他国も苦しんでいることも知ることができました。  
(10代の参加者からのメッセージ)

○ 今日のイベントで私は平和が成り立っているのは戦争について伝えてくれる人々がいるからだと再確認しました。私の学校の放送部は八幡大空襲を題材にしたラジオドラマを制作しています。今日習ったことを生かして作ってほしいと思います。(10代の参加者からのメッセージ)

○ 初めて平和のつどいに来たけどたくさんの方がステージに立って平和のために参加していてすごいなと思いました。来年の8月9日もまた来たいです。(10代の参加者からのメッセージ)

『8・6平和のつどい』によるこそ戦争は学校を戦場にしました。戦争は子どもたちから家族を奪いました。戦争は子どもたちから未来を奪いました。この過去を、この歴史を私たちは語り継がなければなりません。多くの悲しい事実からこそ平和な未来への道筋が託されています。戦争は、平和の中から生まれてきます。戦争は、人間の「無関心」と「他人事」を好みます。戦争の足跡を見逃さないでください。戦争の足音を聞き逃さないでください。皆さん、どうぞ命と平和の大切さを声に出していきましょう。この会場を未来への希望でいっぱいにしましょう。

「8・6平和のつどい」パンフレットより



NO.23につづく

わからないこと・困ったことがあったら… 何でも気軽にお問い合わせください！



///JTU 北九州市教職員組合 〒802-0072 小倉北区東篠崎3丁目4-1

E-mail: jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp

北九州教育会館 TEL (093) 953-0381

